

# 平成30年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

## (個人留学による帰国報告)

### ●氏名

IIさん

### ●留学先

国/都市：フランス/Amiens

外国の高校：Lycée Madeleine Michélin

### ●留学期間

2018年9月6日～2019年7月8日

### ●留学先での活動、留学で学んだこと

日本と日本人の未来のために

私が10か月のフランス留学を経て日本に帰ってから、一か月が経とうとしている。日本の生活の中で最も感じることは、社会や政治に対する意見、それに関する議論の少なさだ。ふとした会話、ソーシャルネットワークサービスの投稿、街中の広告など機会はあるが、意見する人や議論する人たちまたは議論をさせるものはとても少ないと感じる。そもそも世界から「日本人は意見を持っていない、主張がない、優柔不断だ」と評価される傾向にあるのは有名である。

先日の参議院議員選挙の投票率は48.8%。半分に満たない。諸外国と比べるとその差は歴然で、フランスは2017年の大統領選挙の投票率は74.56%、同じく2017年に行われたドイツ連邦議会選挙では76.2%だった。アジアでは韓国の投票率が2016年の総選挙では58.0%、大統領選挙では77.2%だった。しかし、政治制度などが違うという人もいるかもしれない。そこで私が提案したいのは選挙外の政治参加である。ピンとこない人が多いだろうか。英語では、non-electoral political participationと言われ、署名活動、デモ、ストライキ、ティベートなどがある。古いデータだが、2005年から2009年にかけてWorld Values Surveyが行った調査では、スウェーデン、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、スペインの18歳から24歳の90%以上が選挙外の政治活動をしたことがあると回答している。そのうち約50%が署名経験、約30%がデモへの参加経験、約10%がストライキの参加経験であるが、2014年にInternational Social Survey Programmeが16歳以上の日本人男女に対して行った調査では署名経験があるのは全体の37%、デモは7%である。ストライキの項目はなかった。日本人にとってデモやストライキはあまり身近ではないだろう。それどころか少し反社会的な響きさえあるかもしれない。フランスでは昨年11月に始まった黄色いベスト運動や、環境問題と気候変動に関するデモ、6月には各地でレインボープライドが行われた。その一部が暴動化したり、座り込みをする活動家たちに対して警察が催涙スプレーを使用したりと危険な面もあるがフランスの社会に欠かせないものであることは確実だ。スウェーデンの16歳のグレッタ・トゥーンベ

リさんが始めた環境問題、気候変動に対する政治家たちの怠慢さを訴えるスクールストライキがヨーロッパに、そして世界に広まり、各地で活動が行われている。しかし残念なことに“School strike for climate”の日本語のウィキペディアは存在しない。

EUの若者の政治参加と活動をまとめた文書では、インターネットやソーシャルメディア上で社会問題、政治問題に対して自分の意見を表明したことがあるかという調査の結果も提示されており、15歳から24歳の「ある」と回答した割合は40%以上で、45歳以上の「ある」と回答した割合はいずれも25%以下にとどまる。しかし、先ほどと同じ調査で、ネット上で政治的意見を表明したことが「ある」と回答した16歳以上の日本人はわずか2%である。海外では、若者が多く利用するソーシャルネットワークサービス上に活動団体のアカウントや政治家のアカウントも目立つ。ツイッターの投稿はリツイートで世界に広まり、拡散性は比較的高くないインスタグラムでもストーリー機能を使って署名やデモへの参加を呼び掛けたり、投稿を共有したりといった使い方ができる。活動家や活動団体、政治家のアカウントをフォローする高校生もいたって普通だ。日本の若者とは異なる使い方も心得ているのである。

家族または友達との会話でも良い、政治や社会に対してではなくても良い。自分の意見を持ち、言葉で相手に伝えるということはフランスの生活で基本中の基本であった。同調するだけでは会話は成り立たない。意見を求められない場所などなかった。

なぜ、ここまで日本人は自ら意見をしないのか、進んで議論をしないのか。なぜ、政治や社会に無関心なのだろうか。理由のひとつは、文化の違いだろう。日本人はもともと白黒はっきりさせることを好まず、他者との関わりに調和を保つことを重視し、相手の気持ちや言動の訳は察するべきだと考える。場の空気を読むことが求められる。その状況、その人の言葉、感情など、くみ取ることが大事なのだ。しかし文化よりも、教育の制度と環境が最も大きな理由だと私は考える。

まず、初等教育課程での1クラス当たりの児童の人数の平均を各国で比べてみる。日本は先進国の中ではもちろん、調査結果の出ているヨーロッパのどこの国よりも1クラス当たりの児童数が多く、27.3人。ヨーロッパ20か国の平均は19.8人である。留学していたフランスの公立高校の私のクラスは26人だった。そして今日本の公立高校の私のクラスは41人だ。考えてみて頂きたい。児童数または生徒数の多いクラスと少ないクラス、どちらの方がより発言しやすいだろうか。授業中にわからない部分をその場で手を挙げて質問する、というものはや日本の高校ではできないのではないかという行動は、どちらの方が当たり前になりやすいだろうか。意見が出ず、時間だけが過ぎていく学級会が少ないのは、どちらの方だろうか。

次に、教育制度を比べてみる。私が留学していたフランスでは初等教育が5年、前期中等教育(コレージュ)が4年、後期中等教育(リセ)が3年で、合計して12年の義務教育がある。私立の学校もあるが、すべての教育は公立の学校で受けることができる。入学試験はなく、コレージュ卒業時とリセ卒業時に一定のレベルに達しているかを計る全国統一の試験を受ける。もちろん日本の塾に値するようなものはなく、学校の授業を理解して勉強していれば、誰もがその試験を通った資格を得ることができる。そして学校の授業も決して日本のように入学試験向けの詰め込み授業ではない。さらにリセには普通科と別に技術や職業教育などの専門課程がある。要するにコレージュを卒業するまでには、自分は何に興味があるのか、何を学びたいのか、将来何をしたいのか、といったことを自覚していなければならない。実際に将来についての話は最も日常的な会話の一つで、将来何をしたいのかと聞かれれば憚ることなくはっきりと答える。日本の私立小学校受験、中学校受験は子供の意思より親の教育方針の色が濃い。そして高校受験では進学校を目指すのなら塾に通うことが普通である。「学校外教育活動に関する調査2017-幼児から高校生のいる家庭を対象に-」によると、中学生の通塾率は57%

だ。そこに、将来何をしたいか、などという問いはないに等しいだろう。高等学校でも通塾率は36.3%で、高校では「大学受験に向けた」勉強をする。志望校でなく、やりたいことを聞かれて明確に回答できる日本の高校生はどれほどいるのだろうか。知識科目と言われる地理歴史は定期テストでも解答欄の枠を埋める問題ばかりだ。フランスではテストにA4サイズのルーズリーフ4枚を使い、「グローバル化におけるフランス経済での新しい開発」と題してそれに見合うよう考えた案の企画書を書く、というのが地理のテストであった。歴史でも毎回問題用紙には新聞記事の抜粋や風刺画が1枚引用されているだけで、それについて基本情報から背景、展開、経過を記し、自分の解釈や意見を求められることもある。知識があるのは前提で、それを展開すること、そしてその事象をどのように解釈しているかが問われるのである。個人の発表機会も多く、日本の紹介と書道の体験会のために訪問したホストブラザーの小学校でも自分の発表したいもの(好きな本、好きなおもちゃ、自分で作ったものなど何でもよい)を持ち込み、みんなの前で紹介したり体験したりしていた。自分の意思と意見を持ち、その考えをまとめて相手に伝えるということに幼少期から慣れ親しんでいるのである。

日本の教育は「同じ」であることを重視する。一人一人を見た指導ではなく、全体と一人を比べている。できるかできないか、グループは2つだ。求められるのは均一化で、みんなが同じ方向を向き、疑問を持つことなどなく、日本社会で生きやすいようにと囁かれているような気がしてならない。しかし本当にそれでいいのだろうか。統一民族社会に生きる日本人は異なることにより抵抗を感じるのかもしれないが、世界では異なることが当たり前である。隣を見れば、髪や目や肌の色、出身、主義や考え方や価値観、セクシュアリティ、宗教などが異なる人ばかりである。そしてその違いを認め合うため議論をするのだ。日本人も本来一人ひとり違うはずである。個性があるはずで、考え方も異なるはずである。違いを認め伸ばし、幼少期からの豊富な自己表現と意見発表の機会を設け、少年期から青年期の自らによる意思決定と将来選択を基本とし、問題提起力と解決力、文章力をつける。日本と日本人の未来のために、そのような教育が必要だと私は考える。それらが日本人に培われれば、自ずと世界からの「日本人は意見を持っていない、主張がない、優柔不断だ」という評価も変わるであろう。

#### 参考文献

「Political Participation and EU Citizenship: Perceptions and Behaviours of Young People」 Evidence from Eurobarometer surveys

[https://ec.europa.eu/assets/eac/youth/policy/documents/perception-behaviours\\_en.pdf](https://ec.europa.eu/assets/eac/youth/policy/documents/perception-behaviours_en.pdf)

「Youthquake 2017: The Rise of Young Cosmopolitans in Britain」

[https://books.google.co.jp/books?id=MPx9DwAAQBAJ&pg=PA18&lpg=PA18&dq=1+Youth+\(18-24+year+old\)+participation+in+electoral+and+non-electoral+forms+of+politics+in+Europe+and+the+United+States+\(%25\).+\(Source:+World+Values+Survey,+Wave+5&source=bl&ots=1r5zX5h8M6&sig=ACfU3U0Fy18eDcMPnIq3c0XwLQtEQ18oWA&hl=fr&sa=X&ved=2ahUKEwi4orqwh9TjAhUCD6YKHanBDHMQ6AEwAXoECAkQAQ#v=onepage&q=1%20Youth%20\(18-24%20year%20old\)%20participation%20in%20electoral%20and%20non-electoral%20forms%20of%20politics%20in%20Europe%20and%20the%20United%20States%20\(%25\).%20\(Source%3A%20World%20Values%20Survey%2C%20Wave%205&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=MPx9DwAAQBAJ&pg=PA18&lpg=PA18&dq=1+Youth+(18-24+year+old)+participation+in+electoral+and+non-electoral+forms+of+politics+in+Europe+and+the+United+States+(%25).+(Source:+World+Values+Survey,+Wave+5&source=bl&ots=1r5zX5h8M6&sig=ACfU3U0Fy18eDcMPnIq3c0XwLQtEQ18oWA&hl=fr&sa=X&ved=2ahUKEwi4orqwh9TjAhUCD6YKHanBDHMQ6AEwAXoECAkQAQ#v=onepage&q=1%20Youth%20(18-24%20year%20old)%20participation%20in%20electoral%20and%20non-electoral%20forms%20of%20politics%20in%20Europe%20and%20the%20United%20States%20(%25).%20(Source%3A%20World%20Values%20Survey%2C%20Wave%205&f=false)

「低下する日本人の政治的・社会的活動意欲とその背景～ISSP 国際比較調査「市民意識」・日本の結果ら～」

[https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20150101\\_5.pdf](https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20150101_5.pdf)

OECD.Stat

[https://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=EDU\\_CLASS#](https://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=EDU_CLASS#)

「学校外教育活動に関する調査 2017 - 幼児から高校生のいる家庭を対象に一」

[https://berd.benesse.jp/up\\_images/research/2017\\_Gakko\\_gai\\_tyosa\\_web.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/research/2017_Gakko_gai_tyosa_web.pdf)